

西火打岳遭難(2018年5月)

残雪期、単独の47歳女性、登山計画書提出なし。スリップし、携帯電話を紛失。携帯のGPSに頼っていたため道に迷う。1週間ぶりに捜索隊に発見された。



解説

入山は29日11時と遅い。初日に権八小屋跡。翌日に神室岳～小又～17時火打岳通過。下降中にスリップで携帯を紛失。携帯のGPSに頼っていたので現在地がわからなくなった。雪に覆われ夏道は判明せずそのまま砂利押沢へ。5日、土内川を中洲まで渡渉。水位は腰。対岸が断崖だったので諦めた。また渡渉して引き返す。5日、もと来た尾根を登り返し、途中で捜索隊の熊鈴が聞こえた。西火打岳下の夏道から2～300m離れた砂利押沢寄りで発見された。

- ①登山計画書が提出されず、②単独行。③携帯のGPSに頼っていたが紛失のため道に迷ってしまう。地図は持っていたが、④磁石は持っていなかった。
- ⑤装備は、ツェルトとシュラフカバーがあり、⑥体力もあった。⑦山にも慣れていて、⑧土地勘もあった。
- ⑨パニックにならず冷静な行動が良かった。

道に迷う要因は、①～④。助かる要因は、⑤～⑨。注意したい。